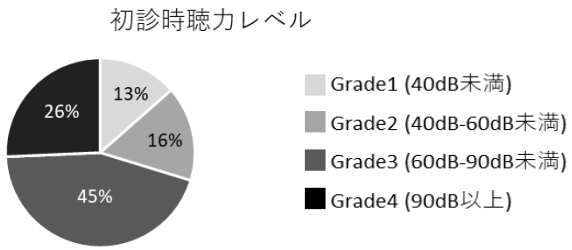
当院における突発性難聴の聴力改善の程度について

◎西谷 静香[1)]、中村 久子[1)]、関 莉乃[1)]、湊 藍子[1)]、坂口 満梨奈[1)]、飯沼 由嗣[2)]、三輪 高喜[3)]
金沢医科大学病院 中央臨床検査部[1)]、金沢医科大学 臨床感染症学[2)]、金沢医科大学 耳鼻咽喉科学[3)]

【はじめに】突発性難聴は突然発症する感音難聴であり、原因が不明または不確実なものと定義されている。当院でも年間約 700 例の耳鼻咽喉科初診患者のうち、およそ 30 例が本疾患と診断されている。予後因子として、年齢・初診時聴力レベル・めまいの有無・治療開始までの日数などが挙げられる。今回、突発性難聴にて治療が行われた症例の予後因子（初診時聴力レベル・めまいの有無）と聴力改善の程度について検討したので報告する。

【対象と方法】2019 年 1 月 1 日～2021 年 8 月 31 日までに当院で突発性難聴と診断され、治療が行われた 74 例（男性 34 例、女性 40 例、年齢 22 歳～87 歳：中央値 65.5 歳）を対象とした。治療後に別の疾患（外リンパ瘻等）と診断されたもの、急性低音障害型感音難聴の定義を満たすものは除外した。初診時の聴力重症度分類と回復の程度は厚労省特定疾患急性高度難聴調査研究班（1998 年,1984 年）の判定基準に従った。聴力改善の程度は最終受診時の聴力を用いた。初診時聴力レベル・めまいの有無が聴力改善の程度に影響を与える要因となり得るのかについて検討した。

【結果】



初診時における重症度は、上記の図のとおりであった。聴力回復の程度は、治癒 24.3%、著明回復 20.3%、回復 23.0%、不変 32.4%となった。また、めまいを併発している群（全体の 43.2%）での聴力改善の程度は、治癒 6.3%、著明回復 31.3%、回復 25.0%、不変 37.5%となり、めまいを併発していない群に比べ治癒に至った症例が有意に低い結果となった。

【まとめ】今回の検討において、治癒に至った症例数はめまいを併発している群で有意に低い結果となった。今後、めまい以外の予後因子についても症例数を重ね検討していきたい。

連絡先：076-286-3511（内線：7256）